

学外研修報告

ブルカージャパン第 36 回 NMR ユーザーズミーティング参加報告

共通機器部門 共通利用機器管理班 柿村 順一

1. はじめに (目的等)

核磁気共鳴分光法 (以後 NMR と略す) に関する基礎的および最新の情報を習得し、今後の教育・研究支援のための知識・技術を向上させることを目的として参加した。

2. 期間・場所

期間 : 令和元年 10 月 2 日

場所 : ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター (大阪府大阪市)

3. 参加者等

大学, 研究所, 企業等にて NMR 分析および運營業務にかかわる技術者および研究者 約 150 名

4. 研修内容

聴講したワークショップ・講演の内容は以下の通りである。

ワークショップ～ ファーマソリューション : 定量と GxP

NMR プローブの取り扱い

講演～最新のハードウェア・ソフトウェア情報, NMR ユーザーへ送る ESR の活用法, 医薬品開発研究における NMR の活用, 溶液 NMR による合成高分子のモレキュラーキャラクタリゼーション

5. まとめと感想

NMR プローブの取り扱いに係るワークショップは, 理論的な説明と共にオシロスコープなどで実際に測定した RF パルスの現実を照らし合わせた内容であった。NMR 測定の準備段階にて疑問に感じていた点の解決に近づくこと, および注意が必要な点を改めて認識することができた。

その他, 強く印象に残っているのは近年利用が進んでいる定量 NMR についてである。日本薬局方に収載され, JIS 通則にもなった定量 NMR 測定を行うに当たっては, 定量性を確保するために注意しなければならない点が多々ある。それをクリアするために機器メーカーが提案する日常点検法, 医薬品メーカーにて定量 NMR を適用した事例を併せて聴講できたことは非常に有意義であった。

今回のミーティング参加にて得られた知識を, 今後の技術支援業務に積極的に活用していきたい。